Document Title

ABCD  
  
○○○○株式会社御中  
  
有限責任あずさ監査法人の品質管理システム  
  
2012年6月  
  
英語翻訳-参考用のみ  
  
これは、日本国外の読者の便宜のために作成された日本語オリジナル版の非公式な翻訳です。日本語オリジナルとこの翻訳との間に相違がある場合は、日本語オリジナルが優先されます。  
  
法人計算規則第131条に基づく法人監査人等への報告事項の通知  
  
XX 2019  
  
KPMG AZSA LLC  
  
目次  
  
1. 品質管理システム 1  
  
2. トップのトーン 3  
  
(1) 品質とリスク管理のリーダーシップ責任 4  
  
3. 適切なクライアントとの関係 5  
  
(1) クライアントとエンゲージメントの受け入れと継続 5  
  
(2) 見込みクライアントとエンゲージメント受け入れプロセス 5  
  
(3) 継続プロセス 6  
  
(4) 撤退 6  
  
(5) クライアントポートフォリオ管理 6  
  
4. 明確な基準と堅牢な監査ツール 7  
  
(1) 監査へのアプローチ 7  
  
(2) 独立性、誠実性、倫理性、客観性 9  
  
5. 適切に資格を持った人材の採用、育成、配置 13  
  
(1) 採用 14  
  
(2) 個人の成長 14  
  
(3) インクルージョンとダイバーシティプログラム 14  
  
(4) 品質とコンプライアンス指標を含む評価プロセス 15  
  
(5) パートナーの採用 15  
  
(6) 専門家の配置 15  
  
(7) 私たちの人々から - グローバル・ピープル・サーベイ（GPS） 16  
  
6. 技術的優秀性と品質サービス提供への取り組み 17  
  
(1) ライフタイム・ラーニング戦略 17  
  
(2) IFRSおよび米国GAAPエンゲージメントに関するライセンスおよび必須要件 17  
  
(3) 専門家ネットワークへのアクセス 18  
  
(4) コンサルテーション文化 18  
  
(5) ビジネス理解と業界知識の開発 19  
  
7. 効果的かつ効率的な監査の実施 19  
  
(1) 継続的な指導、監督、レビュー 19  
  
(2) タイムリーなエンゲージメント品質管理（EQC）レビュアー 20  
  
(3) 報告 20  
  
(4) 洞察力のある、オープンで正直な双方向コミュニケーション 21  
  
(5) 前任監査人と後任監査人間のコミュニケーション 21  
  
(6) クライアントの機密性、情報セキュリティ、データプライバシー 21  
  
(7) リスク関連情報 21  
  
8. 持続的な改善への取り組み 22  
  
(1) 内部監査およびコンプライアンスプログラム 22  
  
(2) 外部からのフィードバックと対話 24  
  
品質管理システム  
  
概要  
  
KPMG AZSAは、KPMGインターナショナルの方針および手順を実施し、金融庁の企業会計審議会、日本政府、日本公認会計士協会（JICPA）およびその他の規制当局が発行する規則および基準、地元の法律（公認会計士法、会社法、金融商品取引法、その他関連法規、JICPAの監査に関する法令および品質管理基準、JICPAの倫理規程および監査に関する実務指針）に対処するように設計された追加の方針および手順を採用しています。  
  
堅牢で一貫した品質管理システムは、高品質なサービスを提供する上で不可欠な要件です。したがって、KPMGインターナショナルは、すべてのメンバーファームに適用される品質管理方針を持っています。これらは、すべてのKPMGスタッフが利用できるKPMGのグローバル品質＆リスク管理マニュアル（グローバルQ＆RMマニュアル）に含まれています。  
  
これらの方針および関連する手順は、メンバーファームが関連する専門基準、規制および法的要件に準拠し、状況に応じた報告書を発行するのを支援するために設計されており、メンバーファームの人員が誠実さと客観性を持って仕事を遂行するのを助けます。これらの方針と手順は、国際監査および保証基準審議会（IAASB）が発行した国際品質管理基準1（ISQC 1）および国際倫理基準審議会（IESBA）が発行した専門会計士の倫理規程に基づいています。これらは、法定監査およびその他の保証および関連サービスエンゲージメントを実施するメンバーファームに関連しています。  
  
KPMG AZSAは、KPMGインターナショナルの方針および手順を実施することが求められ、また金融庁およびJICPAおよびその他の関連規制当局が発行する規則および基準、適用される法律および規制要件に対処するように設計された追加の方針および手順を採用しています。リスクおよび品質方針の変更、倫理および独立性方針を含む品質およびリスク管理アラートに含まれ、電子メールで通知されます。

KPMG AZSA行動規範は、KPMG AZSAのすべてのパートナーと従業員に対する倫理的行動の期待を示し、KPMGの価値観、KPMGの信念と原則の共有セットを基盤として構築されています。また、KPMG AZSA行動規範は、各パートナーと従業員が、自分の職務機能と責任レベルに適用される法的、専門的、倫理的基準を遵守する個人的責任を強調しています。KPMG AZSA行動規範は、私たちのコミットメントを示し、KPMGの人々に、要約すると、以下のような規定を求めています。  
  
すべての適用法、規制、専門基準、およびKPMG AZSAポリシーを遵守する;  
  
適切なクライアントや第三者と協力する;  
  
品質に重点を置く;  
  
KPMG AZSA内で行われた違法または不正行為、クライアントやサプライヤーによる違法または不正行為、取引する公務員による違法または不正行為を容認しない;  
  
情報を保護する;  
  
公正に競争する;  
  
私たちの人々を卓越した存在にする手助けをする;  
  
責任ある企業市民である;  
  
公の信頼を築く。  
  
  
  
すべてのKPMG AZSAの人々は、以下を求められます。  
  
グローバル行動規範およびKPMG AZSA行動規範を遵守し、入社時およびその後毎年、行動規範の遵守を確認する;  
  
入社時およびその後毎年、行動規範に関する定期的な研修を受ける。  
  
個人は、自分が不快に感じることやKPMGの価値観と矛盾することを見たときに声を上げることが奨励されています。さらに、KPMGのすべての人々は、報告する責任があり、違法行為やKPMGの価値観、KPMGのポリシー、適用法、規制、または専門基準に違反する可能性のある活動を報告することが求められています。  
  
私たちは、倫理的および品質問題を報告できる手続きとコミュニケーションチャネルを確立しています。善意で手を挙げて声を上げる個人に対する報復は禁止されています。また、KPMGの内部および外部関係者からの詐欺リスク（つまり、詐欺による重要な誤りのリスク）に関連する情報は、関連するエンゲージメントパートナーに伝えられ、その監査対応が本社に報告されることになっています。  
  
さらに、KPMGインターナショナルホットラインは、KPMGのパートナー、従業員、クライアント、および他の外部関係者が、KPMGインターナショナル自体、KPMGメンバーファーム、またはKPMGメンバーファームの上級リーダーシップまたは従業員による特定の活動領域に関連する懸念を機密で報告するための仕組みです。KPMG AZSAでは、Global People Survey（GPS）（セクション5.（7）を参照）を通じて、私たちの人々がKPMGの価値観をどの程度実践しているかを定期的に監視しています。  
  
  
品質とリスク管理のリーダーシップ責任  
  
KPMG AZSAは、品質、倫理、誠実さへのコミットメントを示し、クライアント、ステークホルダー、および社会に品質への焦点を伝えます。リーダーシップは、適切なトーンを設定し、模範を示すことで重要な役割を果たし、最高水準の専門的卓越性への揺るぎないコミットメントを示し、主要なイニシアチブを支援し、推進します。  
  
リーダーシップチームは、品質、誠実さ、倫理を基盤とした文化を築くことにコミットしており、書面やビデオコミュニケーション、チームへのプレゼンテーション、1対1のディスカッションを通じてその行動を示しています。  
  
以下の個人が、KPMG AZSAでの品質とリスク管理のリーダーシップ責任を持っています。  
  
  
  
マネージングパートナー  
  
ISQC1の原則に従って、マネージングパートナーは、KPMG AZSAの品質管理システム、詐欺リスクへの監査対応を含む最終責任を負っています。  
  
  
  
品質担当の執行役員  
  
KPMG AZSAの品質管理システム、リスク管理、およびコンプライアンスの運用責任は、品質担当の執行役員に委任されており、全体的な専門的リスク管理および品質管理ポリシーの策定と、ファームのコンプライアンス監視を担当しています。  
  
マネージングパートナーと品質担当の執行役員は、内部会議やニュースレターを通じて、品質管理システムに関する内部ポリシー、監査品質を優先する行動とメッセージを専門家に伝えます。  
  
エンゲージメントパートナーは、関与する各エンゲージメントの品質とリスク管理を担当しています。  
  
  
  
適切なクライアントとの関与  
  
クライアントとエンゲージメントの受け入れと継続  
  
監査品質を管理するための鍵は、クライアントの性質と彼らが直面する問題を理解し、特定されたリスクに対する堅牢な監査対応を構築することです。  
  
私たちは、クライアントが私たちの仕事の品質と評判に関連していることを理解しています。  
  
厳格なクライアントおよびエンゲージメントの受け入れおよび継続ポリシーとプロセスは、

見込み顧客およびエンゲージメント受け入れプロセス  
  
KPMG AZSAは、すべての見込み顧客に対して評価を行います。  
  
これには、見込み顧客、その主要な経営陣、重要な利益所有者に対する背景調査を行い、適切に情報を分析して受け入れ決定を行うことが含まれます。この評価には、顧客のリスクプロファイルを評価するためのアンケートの記入や、顧客、その主要な経営陣、取締役、所有者に関する背景情報の取得が含まれます。また、現地の法的および/または規制要件を満たすために必要な追加情報も取得します。  
  
評価パートナーと同様に、第二のパートナーが各見込み顧客の評価を承認します。顧客が「高リスク」と見なされる場合、リスク管理パートナー、場合によってはオフィスマネージングパートナー、または品質担当のエグゼクティブボードメンバーによる追加の承認が必要となります。  
  
エンゲージメント評価  
  
各見込みエンゲージメントも、エンゲージメントに関連する潜在的なリスクを特定するために評価されます。この評価には、潜在的な独立性および利益相反の問題（KPMGの利益相反および独立性チェックシステムであるSentinel™を使用）、エンゲージメント成果物の目的および使用、およびエンゲージメントの種類に特有の要因など、さまざまな要因が考慮されます。監査サービスの場合、これには顧客の財務管理チームの能力、エンゲージメントに割り当てられた人員のスキルと経験、および詐欺リスクが含まれます。評価は、他の上級KPMG AZSA職員と協議し、必要に応じて品質およびリスク管理リーダーシップによるレビューを含みます。  
  
初めて監査サービスが提供される場合、見込みエンゲージメントチームは、顧客に提供された非監査サービスや他の関連するビジネスおよび個人関係のレビューを含む、追加の独立性評価手順を実行する必要があります。  
  
既存の監査顧客が公共利益法人になったり、顧客の状況が変わって追加の独立性制限が適用される場合も、同様の独立性評価が実施されます。公共利益法人である見込み監査顧客に対する独立性の脅威を特定および評価するために、特定の手順（セクション4.(2) ⑦で詳しく述べられている）に従います。  
  
見込み顧客およびエンゲージメントの全体的なリスク評価に応じて、特定されたリスクを軽減するための追加のセーフガードが導入される場合があります。潜在的な独立性または利益相反の問題は、受け入れ前に文書化および解決される必要があります。  
  
潜在的な独立性または利益相反の問題が、専門的な基準および当社の方針に従って満足のいく方法で解決できない場合、または適切に軽減できない品質およびリスクの問題がある場合、見込み顧客またはエンゲージメントは拒否されます。  
  
継続プロセス  
  
KPMG AZSAは、すべての監査顧客に対して年次再評価を実施します。再評価では、継続的な関与に関連する問題や、実施する必要がある緩和手順を特定します。  
  
定期的または長期間続く非監査エンゲージメントも再評価の対象となります。また、リスクプロファイルに変化がある可能性があることを示す兆候がある場合、顧客およびエンゲージメントの再評価が求められます。  
  
撤退  
  
エンゲージメントまたは顧客関係から撤退すべきことを示す情報を入手した場合、社内で相談し、必要な法的、専門的、および規制上の責任を特定します。また、必要に応じて、ガバナンスを担当する者および適切な権限と連絡を取ります。  
  
顧客ポートフォリオ管理  
  
当社のリーダーシップは、各エンゲージメントに対して適切な能力、能力、時間、および権限を持つエンゲージメントパートナーを任命します。  
  
監査パートナーの顧客ポートフォリオは、監査パートナーとの個別の会話で少なくとも年1回レビューされます。レビューでは、業界、性質、リスク全体の顧客ポートフォリオと、各顧客に対して品質の高い監査を提供するためのパートナーの能力、能力、および容量が考慮されます。  
  
明確な基準と堅牢な監査ツール  
  
すべてのKPMG AZSAプロフェッショナルは、KPMGインターナショナルおよびKPMG AZSAの方針および手順に従うことが期待されており、これらの期待に応えるためのツールやガイダンスが提供されています。  
  
監査エンゲージメントのために設定された方針および手順は、会計、監査、倫理、品質管理の基準、およびその他の関連する法律および規制の関連要件を組み込んでいます。  
  
監査へのアプローチ  
  
KPMGは、ネットワークの監査能力を進化させるために大幅な投資を行っており、今後もKPMGクララプラットフォームを通じて提供される新しいグローバル電子監査

監査中に取得したすべての監査証拠の批判的評価を、適切な専門的判断を行使して行う。  
  
エンゲージメントチームの継続的な指導、監督、およびレビュー。  
  
  
  
一貫した監査方法論とツール  
  
KPMGの基準とツールを完全かつ最新の状態に保つために、多くのリソースが投入されています。KPMGの監査方法論は、グローバルサービスセンター（GSC）によって開発され、国際監査基準（ISA）の要件に基づいています。KPMG監査方法論は、KPMG監査マニュアル（KAM）に記載されており、ISAを超える追加の要件が含まれており、KPMGインターナショナルは監査品質を向上させると考えています。方法論は、監査手続きの実施において適切な専門的懐疑心を適用することを強調し、関連する倫理要件（独立性を含む）の遵守を要求しています。監査方法論、ガイダンス、およびツールは、標準、新興監査の焦点領域、監査品質結果（内部および外部）に準拠するために定期的に強化されています。主要なトピックには、会計見積もり、内部統制、収益認識、グループ監査、監査サンプリング、およびリスク評価が含まれます。  
  
  
  
KPMGメンバーファームは、追加の専門、法的、または規制上の要件に準拠するために、KAMにローカル要件および/またはガイダンスを追加することができます。  
  
KAMには、重大な誤りのリスクを特定および評価する手続きや、評価されたリスクに対応する手続きなどの例とガイダンスが含まれています。  
  
KPMGの監査方法論は、適切な場合に専門家の使用を奨励し、また、特定の基準が満たされている場合や、監査チームが適切または必要と判断する場合には、コア監査エンゲージメントチームに関連する専門家の関与を要求しています。  
  
KAMで定められた方針と手続きは、監査に特化しており、すべてのKPMGメンバーファーム、機能、および人員に適用されるグローバルQ＆RMマニュアルで定められた方針と手続きを補完しています。  
  
KPMGの監査ワークフローは、eAudITというアクティビティベースのワークフローおよび電子監査ファイルを通じて有効化されています。eAudITは、KPMGの監査方法論、ガイダンス、業界知識、および監査作業の実行に必要なツールを統合したKPMGの監査文書化ワークフローです。  
  
eAudITは、監査対象となるエンティティの性質に応じて、および専門標準および適用可能な法的および規制要件に従って、関連する要件とガイダンスを提示するように「スケーリング」することができます。監査ガイダンス、専門標準、および文書化テンプレートへの直接アクセスが提供されます。  
  
KPMG監査方法論（KAM）およびワークフローツール（eAudIT）を改訂および強化するための大規模な投資が行われており、2018年に試験運用され、2019年に初期展開が予定されており、2020年から本格展開が始まる予定です。  
  
  
  
KPMGクララ、KPMGクララワークフロー、および監査データ＆アナリティクス（D＆A）  
  
KPMGインターナショナルは、監査品質の向上、監査の実施における一貫性の確保、およびメンバーファームおよびグローバルなエンゲージメントの監視の強化を目的として、大幅な投資を行っています。  
  
  
  
KPMGクララ  
  
2017年、KPMGインターナショナルは、KPMGクララ（KPMGのスマート監査プラットフォーム）のグローバル展開を開始しました。これにより、KPMGの監査データ＆アナリティクス（D＆A）機能、革新的な新技術、コラボレーション機能、および監査ワークフローが統合されました。  
  
これは、KPMGの野心を表しています。  
  
新しい、現代的な技術を活用したインターフェースとコラボレーション機能を通じて、監査の実施を変革する。  
  
監査をデジタル化し、新しいD＆Aルーチンを提供するために必要な機能を統合する。  
  
強化され、再設計されたワークフローを有効にする。  
  
エンゲージメントレベルおよびエンゲージメントポートフォリオ全体での監視機能の開発を、エンゲージメントチームおよびメンバーファームが使用できるようにする。  
  
メンバーファームの品質管理システムの有効性を監視するためのグローバルリーダーシップをサポートする。  
  
メンバーファームのカスタマイズとスケール、および将来の機能を可能にする拡張可能な監査プラットフォームを開発する。  
  
  
  
  
  
KPMGクララワークフロー  
  
2017年のKPMGクララの立ち上げを受けて、KPMGインターナショナルは、KPMG監査チームがKPMG監査を実行および文書化するために使用する新しいワークフローツールを作成しています。これは直感的で使いやすく、現代的です。新し

データ集団のより深い理解を提供し、より高いリスク取引に焦点を当てることで監査品質を向上させます。  
  
KPMGのIT環境内およびデータの転送中のアクセスを制限することで、セキュリティが確保されています。  
  
詳細な分析を通じて、外れ値や異常の背後にある理由や根本原因を明らかにし、高リスク取引やプロセス領域の可視性を向上させることで透明性を提供します。  
  
D＆Aツールとルーチンは、監査の基礎となる原則と専門的な基準に基づいて構築されており、監査人の責任を免除するものではありません。  
  
  
  
独立性、誠実性、倫理、客観性  
  
概要  
  
監査人の独立性は、国際的な専門基準と規制要件の基石です。  
  
KPMGインターナショナルは、IESBAの倫理規定の要件を取り入れた詳細な独立性ポリシーと手順を持っており、KPMGのグローバルQ＆RMマニュアルに記載されています。自動化ツールがこれらの要件の遵守を支援します。  
  
これらのポリシーは、公認会計士法およびJICPAが発行する倫理規定によって発行された基準の遵守を確保するための他のプロセスによって補完されています。  
  
これらのポリシーとプロセスは、事業の独立性、個人の独立性、事業の財務関係、雇用後の関係、パートナーのローテーション、監査および非監査サービスの承認などの分野をカバーしています。  
  
KPMGインターナショナルには、グローバル独立性グループの責任者であるパートナーがおり、KPMGメンバーファームで堅牢で一貫した独立性ポリシーと手順が整備されていることを確認し、それらの要件を遵守するためのツールが利用可能であることを支援するための専門家チームが支援しています。  
  
KPMG AZSAには、倫理および独立性パートナー（EIP）が指定されており、倫理および独立性ポリシーおよび手順の方向性と実行に主要な責任があります。  
  
年間を通じてKPMGインターナショナルの倫理および独立性ポリシーの改訂は、定期的な品質およびリスク通信に含まれています。  
  
メンバーファームは、電子メールアラートで指定された変更を実施する必要があり、これは内部監視プログラムを通じて確認されます。  
  
KPMG AZSAの職員は、内部規則で定められた事項についてEIPに相談する必要があります。事実および状況に応じて、グローバル独立性グループとの相談も必要になる場合があります。  
  
  
  
個人の財政的独立性  
  
KPMGインターナショナルのポリシーでは、KPMGメンバーファームおよびKPMGの専門家が、KPMGメンバーファームの監査クライアント、その経営陣、取締役、および重要な所有者との禁止された金融上の利益および禁止された関係から解放されることが求められています。また、ポリシーは、IESBAの倫理規定による監査クライアント証券の所有制限を、当社のすべてのパートナーおよびマネージャー職以上のスタッフに適用し、すべてのメンバーファームの監査クライアントに関して適用されます。  
  
KPMG AZSAの専門家は、継続的に適切な問い合わせを行い、他の適切な行動を取ることで、独立性の目的で制限されている個人の財政、ビジネス、または家族の利益を持っていないことを確認する責任があります。  
  
他のKPMGメンバーファームと同様に、私たちはWebベースの独立性コンプライアンスシステム（KICS）を使用して、専門家が個人の独立性投資ポリシーを遵守するのを支援しています。このシステムには、一般に入手可能な投資の在庫が含まれています。  
  
パートナーおよびすべてのマネージャー職以上のクライアント対応担当者は、投資を行う前にKICSシステムを使用して、それが許可されているかどうかを特定する必要があります。また、KICSで自分のすべての投資の記録を維持する必要があり、投資が後で制限されると自動的に通知されます。新たに制限された投資は、通知から5営業日以内に処分する必要があります。  
  
KPMGは、専門家のサンプルの独立性コンプライアンス監査の一環として、パートナーおよびマネージャーのこの要件の遵守を監視しています。  
  
  
  
雇用関係  
  
監査クライアントにサービスを提供する専門家は、機能に関係なく、その監査クライアントとの雇用交渉に入る予定である場合、EIP、監査クライアントのエンゲージメントパートナー、および人事部に通知する必要があります。  
  
KPMG AZSAの元監査チームのメンバーや元パートナーは、KPMG AZSAとのすべての重要なつながりを解消し、KPMG AZSAのビジネスおよび専門活動に参加するのをやめるまで、特定の役割で監査クライアントに加入することが禁止されています。  
  
公益法人である監査クライアントのキーオーディットパートナーおよび監査クライアントのコマンドチェーンの

KPMG AZSAと他のKPMGメンバーファームと同様に、KPMG AZSAは、KICSを使用して、ウェブベースの独立性追跡システムで、自社の投資（たとえば、年金および退職プランや財務活動を通じて行われる投資）を記録します。この記録は、コンプライアンスプロセスを通じて監視されます。  
  
事業関係/サプライヤー  
  
KPMG AZSAは、IESBAの倫理規定、日本公認会計士法、JICPAが発行する倫理規定、SEC、米国PCAOBルール要件に従って事業関係を維持するように設計されたポリシーと手順を持っています。  
  
独立性の確保プロセス  
  
KPMG AZSAは、公益法人である見込みの監査クライアントに関連する独立性への脅威を特定および評価するための特定の手順を実施しています。これらの手順は、「独立性の確保プロセス」とも呼ばれ、これらのエンティティの監査業務を受け入れる前に完了する必要があります。  
  
独立性の研修と確認  
  
KPMG AZSAのすべてのパートナーおよびクライアントサービス専門家、および特定の他の個人は、KPMG AZSAに参加した際およびその後毎年、役職と機能に適した独立性研修を受講する必要があります。この研修を受講する必要がある新入社員は、KPMG AZSAに参加してから30日以内または監査クライアント（関連するエンティティや関連会社を含む）にサービスを提供する前に、いずれか早い方を選択して研修を受講する必要があります。  
  
また、すべての従業員に対して、グローバル行動規範、KPMG AZSA行動規範、倫理的行動（KPMGの贈賄防止ポリシー、法令・規制・専門基準の遵守、法令・規制・専門基準およびKPMGのポリシーに対する疑わしいまたは実際の違反の報告など）に関する研修を2年ごとに提供しています。新入社員は、KPMG AZSAに入社してから3か月以内にこの研修を受講する必要があります。  
  
雇用の受諾時に、すべてのKPMG従業員は、適用される倫理および独立性のルールおよびポリシーに従い、それらを遵守することを確認する必要があります。  
  
その後、すべてのKPMG従業員は、確認書に記載された年間を通じて適用される倫理および独立性ポリシーに従い続けたこと、および適用される行動規範に対する理解と遵守を、毎年の確認書に署名することが求められます。この確認は、個人がKPMGの独立性ポリシーに対する遵守および理解を証明するために使用されます。  
  
パートナーのローテーション  
  
当事務所のローテーションポリシーは、公認会計士法およびJICPAの倫理規定と一致しており、より厳格な現地の適用されるローテーション要件に遵守することが求められます。  
  
KPMG AZSAのパートナーは、適用される法律、規制、独立性ルール、およびKPMGインターナショナルのポリシーに基づいて、監査クライアントに対する責任を定期的にローテーションさせる対象となります。  
  
これらの要件は、特定の役割を担うパートナーがクライアントに監査サービスを提供できる年数に制限を設け、その後、「タイムアウト」期間が設けられ、この期間中、これらのパートナーは監査に参加したり、監査の品質管理を行ったり、エンゲージメントチームやクライアントと技術的または業界固有の問題について相談したり、監査の結果に何らかの影響を与えることはできません。  
  
KPMG AZSAは、監査業務責任者（およびローテーション要件がある場合のキーオーディットパートナーやEQCレビュアーなどの他の重要な役割）のローテーションを監視し、必要なコンピテンスと能力を持つパートナーを割り当てて、クライアントに一貫した品質のサービスを提供できるように移行計画を策定します。パートナーのローテーション監視は、コンプライアンステストの対象となります。  
  
非監査サービス  
  
監査クライアントに提供できるサービスの範囲に関連する、IESBAの原則および適用される法律および規制と一致したポリシーを持っています。  
  
KPMG AZSAが開発するすべての新規および改訂されたサービスを審査および承認するプロセスを確立および維持することが求められます。KPMG AZSAのEIPは、潜在的な独立性問題の審査に関与し、複数の管轄区域で監査またはアシュアランスクライアントに提供することを目的とした開発されたサービスの場合、グローバル独立性グループが関与します。  
  
利益相反の特定に加えて、Sentinel™はこれらのポリシーの遵守を促進します。  
  
すべての見込みエンゲージメントに関する特定の情報（サービスの説明や手数料を含む）は、エンゲージメント受諾プロセスの一部としてSentinel™に入力する必要があります。リード監査業務責任者は、上場企業および特定の

手数料依存性  
  
KPMGインターナショナルの方針では、監査クライアントからの総手数料が、監査意見を表明するメンバーファームの総手数料の大部分を占める場合、自己利益または脅迫の脅威が生じる可能性があると認識しています。  
  
公益性のあるエンティティの監査クライアントおよび関連エンティティからの総手数料が、特定のメンバーファームによって受け取られた総手数料の10％を超える場合、2年連続で以下の対応が求められます。  
  
監査対象エンティティのガバナンスを担当する者に開示されること。  
  
別のKPMGメンバーファームからEQCレビュアーが任命されること。  
  
過去2年間で、KPMG AZSAから受け取った総手数料の10％を超える監査クライアントはありませんでした。  
  
  
  
利益相反の回避  
  
利益相反は、KPMG AZSAのスタッフがクライアントとの個人的なつながりを持っており、客観性を維持する能力に影響を与えるか、または影響を与えると認識される場合、または取引の当事者に関する機密情報を個人的に保有している場合に発生する可能性があります。このような状況では、RMPまたはEIPとの相談が必要です。  
  
すべてのKPMGメンバーファームおよびスタッフは、利益相反を特定および管理する責任があります。利益相反とは、十分に情報を持った合理的な観察者が、メンバーファームまたはそのスタッフが客観的であるか、または偏りなく行動する能力に影響を与えると認識される状況または状況です。  
  
すべてのKPMGメンバーファームは、法的および専門的要件に従ってこれらの問題に対処できるように、潜在的な利益相反の特定のためにSentinel™を使用する必要があります。KPMG AZSAには、潜在的な利益相反を特定し、影響を受けるメンバーファームと協力して利益相反を解決する責任を持つリスク管理リソース（「Resolver/s」）があります。その結果は文書化されなければなりません。  
  
利益相反が生じる、または生じると認識される可能性を管理するために、特定の手続きを適用する必要がある場合があります。これには、例えば、異なるクライアントを担当するエンゲージメントチーム間に正式な仕切りを設け、その仕切りの運用を監視する手配を行うことが含まれます。  
  
利益相反の管理方法について合意が得られない状況に対して、エスカレーションおよび紛争解決手続きが整備されています。  
  
潜在的な利益相反問題が適切に緩和されない場合、エンゲージメントは辞退または終了されます。  
  
  
  
独立性ポリシーの違反  
  
すべてのKPMGスタッフは、独立性違反に気付いたらすぐにEIPに報告することが求められています。独立性ポリシーに違反した場合、コンプライアンスレビューで特定された場合、自己申告された場合、またはその他の場合に、専門家は独立性懲戒ポリシーの対象となります。  
  
KPMG AZSAは、独立性ポリシー違反に関する文書化された懲戒ポリシーを持っています。この懲戒ポリシーは、すべての専門家に伝えられ、独立性ルールの違反に対して、違反の深刻さを反映した段階的な制裁が適用されます。  
  
監査人の独立性規制の違反は、監査クライアントのガバナンスを担当する者に報告されます。これは、彼らとの合意に基づいて行われますが、少なくとも年1回報告されます。  
  
  
  
法令、規制、および贈賄・腐敗防止への遵守  
  
法令、規制、および基準の遵守は、すべてのKPMG AZSAスタッフにとって重要な側面です。特に、贈賄と腐敗に対してはゼロトレランスです。  
  
適用法または現地の慣行によって合法的または許可されている場合であっても、あらゆる種類の贈賄への関与を禁止しています。また、クライアント、サプライヤー、公務員を含む第三者による贈賄も容認しません。  
  
KPMGインターナショナルの贈賄・腐敗防止ポリシーに関する詳細情報は、贈賄・腐敗防止サイトで確認できます。  
  
  
  
インサイダー取引の防止  
  
インサイダー取引を防止するために、KPMG AZSAは、資本市場の情報信頼性を確立することを目的とした内部規則および手続きを持っています。これには、監査対象エンティティの証券の保有または取引の禁止、および日本および他の管轄区域での上場企業への個人投資を監視するウェブベースの独立性追跡システムへの登録が含まれます。  
  
すべてのパートナーと従業員は、適切な研修を通じてインサイダー取引ポリシーを理解し、期間中適用ポリシーに遵守していたことを年次確認します。  
  
  
  
適切に資格を持った人材の採用、育成、および配置  
  
品質の主要な要因の1つは、専門家が適切なスキルと経験、情熱と目的を持って、最高品質の監査を提供できることを確保するこ

パートナー、マネージャー、およびEQCレビュアーには、IFRSが主要な財務報告の枠組みでない国でのIFRSエンゲージメントに関して、特定の要件があります。同様のポリシーは、米国外で実施されるエンゲージメントにも適用され、米国GAAPおよび/または米国監査基準に従って監査された財務諸表または財務情報に関する報告、および財務報告に関する内部統制の有効性に関する報告が含まれます。  
  
これらは、パートナー、マネージャー、およびEQCレビュアーが関連する研修を完了し、エンゲージメントチーム全体がエンゲージメントを実施するのに十分な経験を持っているか、不足を解消するための適切なセーフガードを実施していることを要求しています。  
  
専門家ネットワークへのアクセス  
  
KPMG AZSAのエンゲージメントチームは、地元のKPMG専門家のネットワークおよび他のKPMGメンバーファームの専門家にアクセスできます。  
  
監査チームのメンバーであり、監査エンゲージメントにおける専門家の関与に全体的な責任を持つ専門家は、役割を適切に果たすための能力、能力、および客観性を持っています。これらの専門家には監査概念の研修が提供されます。  
  
特定の監査エンゲージメントに専門家（例：情報技術、税務、精算、法医学、評価）を割り当てる必要性は、監査エンゲージメントの受諾および継続プロセスの一部として検討されます。  
  
コンサルテーションの文化  
  
KPMGは、メンバーファームチームの意思決定プロセス全体を支援し、監査品質に大きく貢献する強力なコンサルテーション文化を奨励しています。  
  
KPMG AZSAは、コンサルテーションが強みと認識され、困難または論争のある問題について相談することを奨励する文化を推進しています。  
  
監査エンゲージメントの専門家が困難または論争のある問題に対処するために、重要な会計および監査問題のコンサルテーションおよび文書化に関するプロトコルが確立されており、エンゲージメント問題に関する意見の相違の解決を促進する手順が含まれています。  
  
これらのプロトコルには、詐欺による重大な誤りの兆候が特定された場合のコンサルテーションの方針と手順が含まれています。  
  
適切なコンサルテーションサポートが、専門的な実践リソースを通じて監査エンゲージメントの専門家に提供されます。  
  
GSCおよびISGをはじめ、米国証券取引委員会（SEC）の外国登録者向けの米国キャピタルマーケットグループを通じて、すべてのメンバーファームおよびその専門家に技術監査および会計サポートが提供されます。  
  
グローバルサービスセンター（GSC）  
  
GSCのミッションは、協力、革新、および技術を通じてKPMGのグローバル監査事業の成功を促進することです。 GSCは、KPMGの監査専門家が効果的かつ効率的な監査を実施するのに役立つKPMGの監査方法論および技術ベースのツールを開発、維持、および展開します。 3つのグローバル拠点を持つGSC監査チームは、監査、IT、データサイエンス、数学、統計などの分野の専門家で構成されており、世界中から多様な経験と革新的な考え方をもたらしてKPMGの監査能力をさらに進化させています。  
  
国際基準グループ（ISG）  
  
ISGは、Global IFRSおよびISAsトピックチームと協力して、メンバーファーム間のIFRSおよび監査要件の解釈の一貫性を促進し、新興問題を特定し、タイムリーな基準に基づくグローバルガイダンスを開発します。  
  
GSCおよびISGおよびその活動に関する詳細は、KPMG International Transparency Reportで入手できます。  
  
メンバーファームの専門実践リソース  
  
適切なコンサルテーションサポートが、監査および技術会計問題に関して監査エンゲージメントの専門家に提供されます。これは、専門実践リソース（Department of Professional PracticeまたはDPPと呼ばれる）を通じて行われます。 DPPは、チーム内またはEQCレビュアーとの意見の相違がある場合に、エンゲージメントチームを支援します。解決されない相違は、最終決定のために上級パートナーにエスカレートする必要があります。必要に応じてISGもコンサルテーションに利用できます。  
  
KPMG Internationalの方針には、メンバーファームDPPの最低要件が含まれています。  
  
ビジネス理解と業界知識の開発  
  
品質の重要な部分は、クライアントのビジネスと業界を詳細に理解することです。  
  
重要な業界については、グローバル監査セクターリードが任命され、関連する業界情報の開発を支援し、KPMG監査ワークフローを通じて監査専門家に提供されます。  
  
この知識には、業界監査手順の例やその他の情報（典型的なリスクや会計プロセスなど）が含まれています。さらに、特定の

クライアントからのフィードバック  
  
私たちは、提供されたサービスに対するクライアントの満足度を監視するために、積極的にクライアントからのフィードバックを求めています。  
  
このフィードバックを受けて、エンゲージメントレベルと企業レベルの両方でクライアントのニーズに応えるために、ダイナミックな変更を行うよう努めています。  
  
  
  
23  
  
  
  
Typ済\_cleanコメント集約版131条通知記載事項\_Complete\_201907w.docx - 2019/08/05  
  
  
  
© 2019 . すべての権利が保護されています。  
  
© 2019 . すべての権利が保護されています。1